

日本共産党の
市長候補は

新しい広島を

あなたと一緒に つくります

不要不急のムダな大型開発にメスを入れ、公共事業は防災・老朽化対策を重点に

高速5号線
二葉山
トンネル

広島駅から空港までたった5分短縮に1471億円

高速5号線は、広島駅から空港までたった5分短縮するのに1471億円。日本共産党は当初からと反対してきました。その上、二葉山のトンネル工事はトラブル続きで完成の見通しも立たず、工事費はどこまで増えるか不明です。

総事業費 当初700億円→**1471億円**
トンネル工事 当初80億円→202億円→**303億円**

広島駅南口再整備

当初の155億円が

今は**360億円**

- 市内7,989カ所の土砂災害警戒区域、大雨が降れば土砂崩壊の危険。自助・共助の前に公助の強化が必要です。
- 30年以内に必ず起きると想定される「南海トラフ大地震」、液状化・津波・土砂崩壊への対策は急務です。
- ムダな大型開発にメスを入れ災害避難所の整備、橋やトンネルなどの防災・老朽化対策に重点を移します。

市民のくらし・福祉・文化を前進させます 市民の税金は、市民のくらし・福祉・文化・教育中心に

●子育て応援へ「3つのゼロ」を実行します。

①学校給食費ゼロ

学校給食は無料に、「大規模給食センター」ではなく「自校調理」を広げます。

②高卒までの医療費ゼロ

全国20の政令市の中で高3まで無料11市、中3までが7市。通院補助が小6まで・所得制限があるのは広島と札幌の2市だけです。

③放課後児童クラブの利用料ゼロ

50年以上前から無料を続けてきたのに4月から「有料化」。多くの保護者が困っています。利用料ゼロを続けます。

●市立中央図書館などの「移転」は再検討します。

市民に親しまれてきた中央図書館と映像文化ライブラリー。駅前のエールエールA館への「移転」を再検討します。多くの市民が移転反対の声をあげています。

●老朽化したプール・子ども施設を再建・更新します。

市内の小学校のプールが老朽化し、子どもたちが他校や他施設に行く事例が出ています。船越児童館も老朽化し、学校に間借り。市は予算がないから新設・更新しないと断っています。大型公共事業は休止、子どもたちの施設を再建・更新します。

●高すぎる国保料・介護保険料を引き下げます。

市民の声が生きる広島市を力を合わせてつくります

- 市民の声に耳を傾け、市民と一緒に市政を変える、住民自治の市政に変えます
- 岸田政権が進める戦争準備の暴走をキッチリ批判し、被爆地ヒロシマの自治を守ります
- 核兵器廃絶を世界に発信し、核兵器禁止条約への参加を、政府にしっかり要求します

■日本共産党の市長候補に、あなたの一票を■

ヒロシマは平和を求めます

「大軍拡・増税NO!」の声をあげましょう



岸田政権が敵基地攻撃能力を保有してアメリカと一緒に戦争する国づくりに乗り出し、「戦争か平和か」、日本の進路が問われています。世界で最初の戦争被爆地ヒロシマの市長の役割の発揮が、いま、本当に問われています。

核兵器禁止条約への参加を、日本政府・世界に求め続けます

ヒロシマの願いは核兵器の廃絶。その偉大な一歩として、核兵器禁止条約が2年前に発効しましたが、岸田自公政権はアメリカの核の傘に依存し、条約への参加を拒否しています。ヒロシマの市長として条約への参加を日本政府、世界各国に求め続けます。



戦争の準備より、平和の準備を一軍備拡大「NO!」と言える市長に

■岸田政権に「軍備拡大に反対」と言える市長を

ヒロシマは世界に「核兵器をなくそう」「戦争反対」と訴えてきました。アメリカと一緒に戦争する国づくりに突き進む日本政府に、

「戦争の準備より平和の準備を」「軍備拡大NO!」と言える市長が必要です。

■広島湾で「日米共同軍事演習」に抗議もしない広島市長!?

広島湾で2月27日、海上自衛隊と米軍が初めて「共同軍事訓練」を行いました。広島湾には、市内から流された被爆者の遺骨が今も沈んでいます。多くの市民が中止せよと訴えましたが、広島市長は抗議もしませんでした。政府は「核兵器による報復」も想

定して全国の自衛隊施設を「地下化」「強靱化」しようとしています。軍事演習は戦争の準備、ヒロシマも戦場に巻き込まれます。市民とともに抗議する市長が必要です。

■「軍事対軍事」ではなく「外交と対話」、ヒロシマがその一翼を担うー日本共産党の外交戦略

異常な軍備拡大は「日本を守る」どころか「戦争への道」です。東南アジア諸国連合(ASEAN)は、互いに友好協力条約を結び、徹底した対話で、東南アジアを戦争の心配のない平和な地域にしました。軍事対軍事ではなく、ASEANと協力する「外交」の力

で「平和の枠組み」をつくる、これが日本共産党の外交戦略です。被爆地ヒロシマの市長は、外交の力で戦争の心配のないアジアをつくる先頭に立つことができます。

戦争は「最大の暴力」ー「戦争反対」つらぬいて101年 日本共産党

戦前の侵略戦争に命がけで反対

●日本の侵略戦争は、アジア・太平洋各国で2000万人以上、国内で310万人以上の死者という史上最大の惨害をもたらしました。戦争は「最大の暴力」です。

共産党以外のすべての政党が侵略戦争に協力するもとの、命がけで反対を貫いたのが日本共産党です。そしていま、岸田政権の大軍拡、アメリカと一緒に戦争する国づくりに正面から反対しています。

●反社会的カルト集団として世論の批判を受けている統一協会の政治団体であり、自民党と深く結びついて、共産党攻撃を続けてきた国際勝共連合が、日本共産党を「暴力革命の方針を堅持」などと攻撃する「中傷ピラ」を配っています。

NO!
WAR



勝共連合が破たん済みの「中傷ピラ」

国際勝共連合の「中傷ピラ」は公安調査庁などの「見解」を持ち出した攻撃ですが、この「見解」なるものは、34年も前に破たん済みのものです。

1989年2月の衆院予算委員会で日本共産党の不破哲三議長(当時)の質問に、公安調査庁の石山長官(当時)は、公安調査庁発足以来36年間、日本共産党への不当な調査を続けながら、「破壊活動の証拠」は何一つ見つけられなかったことを認めました。破たん済みの「見解」にしがみついで攻撃しているのが、自民党とゆ着した勝共連合です。

「反共は戦争前夜の声」 故蜷川虎三 京都府知事

「反共は戦争前夜の声」と言われます。戦前の侵略戦争は共産党の弾圧から始まりました。大軍拡に正面から反対する日本共産党への破たん済みの攻撃。「反共」大合唱は戦争の前触れー歴史の教訓です。